

## 小野院長のルーツソングからパーソナルソングを探る

### ●帰って来たヨッパライ／ザ・フォーク・クルセダーズ

あらためていい曲だなあ〜と（笑）。幼いころ、人は「オラは死んじゃったあ〜」と唄いながら天国に昇っていくだろうと思っていました（苦笑）。でも、本当にそんな感じだったらいいな。

### ●瀬戸の花嫁／小柳ルミ子

幼稚園に入ったばかりの5月、担任の先生がいきなり結婚退職されることになりました。5月生まれだった先生は、毎月の誕生会で、結婚退職を発表され、当時大流行していた『瀬戸の花嫁』を唄われました。裏切られたような、なんともいえない気持ちで聴いていたことを今もよく覚えています。初失恋だったのかもしれませんが。この曲を聴くたび、そのときのシーンがループします。

### ●子守歌

母が子守唄を唄いながら寝かしつけてくれていたのだと思います。実際の記憶なのか、妹を見ながら記憶を重ねていたのか…自分の子供にも同様のことをしながら寝かしつけていました。僕が感じていたような、穏やかな、幸せな心地よさに包まれますようにと願いながら…死が避けられないなら、治療よりも、背中をとんとんと手を当てながら、子守唄を唄って欲しい。それだけでいいと思っています。

### ●Kiss of Life/SADE

僕の中の究極のラブソング。20歳ぐらいから、いつの時代もずっとヘビーローテーションしています。自分でセレクトCDなんかを作るのが好きなのですが、いつも入ってます。

### ●Jazz ならば

Jazzは大好きで、とくにピアノが好きです。究極はなんといってもキース・ジャレットの『ケルン・コンサート』。出だしの美しさと緊張感がなんとも言えない。最初のワンフレーズで、目の前が真っ白で、誰もいない、澄み切った空間にトリップできる…そんな曲。人生で一番聴いている曲です。

人生に疲れ切って弱っているとき、愛する女性を想いながら聴くならエラ・フィッツジェラルドとルイ・アームストロングのデュエットアルバム『Ella & Louis』の『Cheek to Cheek』と『The Nearness of You』。大好きな映画『イングリッシュ・ペイシエント』のレイフ・ファインズのように愛する人との美しい思い出を回想しながら逝きたい。

ルイ・アームストロングと言えば、誰もが知ってる『What a Wonderful World』。この曲は

僕の結婚式の来賓者の退出時にかけたんですが（僕は結婚式のすべての曲を編集したので）、自分の葬式の最後でもかけたいな…やっぱり「What a Wonderful World」と思って逝きたいし、そう思いながら逝ったことを皆さんに伝えたい。

ジャズと言えば、この曲！といった感じのジョン・コルトレーンの『Say It』（アルバム『Ballads』より）。一番最初に聴いたジャズ。初めてレンタルで借りたCDがこれで、『Say It』は1曲目なので、一発で大人の世界が開けた気がしました。これを聴くと、ひと仕事終わって、いきつけのバーで、ひとりグラスを傾ける…そんな気分になるので（そんなことしたことないけど 苦笑）、「自分もよく走ってきたな」と自分を褒めながら人生を閉じたい。

### ●Classic ならば

クラシックは詳しくはないのですが、アルバム『鎮魂楽』の中の『G線上のアリア』と『カヴァレリア・ルスティカーナ間奏曲』が大好きです。死ぬまでに行きたい場所のひとつにイタリアのアマルフィ海岸がありますが、この二曲を聴くと、鳥になって、その上空を飛んでいるような感じになるんです。だから、アマルフィに行くことなく人生を閉じるとしても、この曲を聴けばトリップできると思っています。

何を聴くか決めれないとき、そういう時って、疲れてたり、頭の中がゴチャゴチャだったりするんですが、キース・ジャレットの『ケルン・コンサート』以外に、グレゴリオ聖歌をよく聴きます。人生の最後、葬式のときのBGMはこれかな？

### ●大好きな山下達郎なら

やはり、一番グッとくるのは『蒼氓』でしょうね。震災や紛争、そんなことが起こって、なんともやりきれなくなったときに、これを聴くと、心が落ち着いて、一步を踏み出せる気がするんです。自分の葬式の一番盛り上がるところでかけたい（葬式って盛り上がるのか？）。

映画『Big Wave』のサントラアルバムの、『Only With You』『Magic Ways』『Your Eyes』『I Love You…Part2』。この流れ、やっぱ最高！学生時代、デートのBGMの最後は、これが流れるように仕込んで（笑）、「これであの娘のハートもイチコロ！」ってデートに臨むんだけど、毎回見事に振られ、『クリスマス・イブ』の“きっと君は来ない〜”って流れると、号泣しながら帰ってました…（恥）

### ●その他

『見上げてごらん夜の星を』『上を向いて歩こう』／坂本九

これ、やっぱり名曲ですね。『上を向いて歩こう』は『SUKIYAKI』として全米でもヒットした曲として有名ですが、坂本九さんの声って、言葉がわからなくても癒やされるんでしょうね。

『満月の夕 (2018 ver.)』(アルバム『森の診療所 Chapter2』より) / アン・サリー

最近、繰り返し聴いています。台風や大雨の被害で大変な思いもしながらも、たくましく前に進もうとする人々の姿を見ると、涙が溢れるし、「どうか頑張っ」て」と願うばかり。これは関西大震災の後に作られた曲で、それをアン・サリーさんがカバーされています。サリーさんの声自体に癒やされるのですが、曲の内容にも力づけられます。

同じアルバム中の『ほほえんであげましょう』。これ歌詞がいいんです。それとマッチしてサリーさんの声。最近、疲れたとき、凹んだ時に力をもらっています。

サリーさんの曲では、『Smile』もいい。原曲はチャールズ・チャップリンの映画『モダン・タイムス』のテーマ曲で、チャップリンが作曲した有名な曲。ナット・キング・コールが唄ったことで有名になった曲でもあります。「笑っている限りは、明日が常にある」、凹んでいるときにはとても癒やされる曲です。